

こども政策の推進に係る有識者会議

青少年の体験活動の現状と課題からみた
子どもの健やかな成長と自立に必要なこと

2021年10月18日



青木 康太郎

國學院大學人間開発学部 准教授

国立青少年教育振興機構

青少年教育研究センター 客員研究員

本日お伝えすること

- ✓ 子どもの頃の体験の大切さ
- ✓ 子どもの体験活動等の現状と課題
- ✓ 子どもの健やかな成長と自立に必要なこと

体験活動とは？

体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験のことである。

中央教育審議会答申(2007)「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」

自然体験活動

登山やキャンプ、ハイキング等といった野外活動、星空や動植物観察といった自然・環境に係る学習活動

生活・文化体験活動

遊びやお手伝い、野遊び、スポーツ、部活動、地域や学校における年中行事

社会体験活動

ボランティア活動や職場体験活動、インターンシップ

中央教育審議会答申(2013)「今後の青少年の体験活動の推進について」

子どもの頃の体験活動は生きる力をはぐくむ糧

子どもの頃の様々な体験活動は**生きる力**をはぐくむ**糧**となり、その後の**人生を豊かにする基盤**になる。

子どもが調和のとれた発達をしていくためには、発達の様々な側面に関連する**多様な体験**をすることが重要である。

子どもの頃の自然体験は・・・

- ✓ 五感を使って自然を感じることで**豊かな感性**をはぐくまれ、**自然の大切さ**や**命の尊さ**を学ぶよい機会になる。
- ✓ 自然の中で感動したり、驚いたりしながら「なぜ、どうして」と考えを深めることで、事物に対する**知的好奇心**や**学ぶ意欲**を高めるきっかけになると言われている。



子どもの頃の体験がその後の成長にもたらす効果

過去の調査研究の成果を概観すると、以下の傾向がみられる。

- ✓ “自然体験”をよくしている子どもほど、自尊感情や外向性といった意識が高く、探究力や自立的な行動習慣が身についている。
- ✓ “自然の中で遊んだこと”や“自然観察”をしたことがある子どもほど、算数や国語、理科の正答率が高くなる。
- ✓ 幼児期に“外遊び”をよくしていた子どもほど、日常的に運動している割合が高く、体力や運動能力が高い。
- ✓ 子どもの頃、“遊びに熱中し、外遊び”をよくしていた人ほど、へこたれない力やコミュニケーション力の高い大人になる人が多い。
- ✓ 子どもの頃、“家族でスポーツや自然体験”をよくしていた人ほど、自己肯定感や意欲の高い大人になる人が多い。

子どもの体験活動の現状と課題

青少年の自然体験活動の現状を調べた調査結果をみると、

- ✓ 自然の中で遊んでいる子どもは減少傾向にある。
- ✓ 6割以上の保護者は、自分の子どもの頃と比べ、“今の子どもは体験活動の機会が少なくなっている”と感じている。
- ✓ “家族や友だちと一緒にいる自然体験活動”は増えつつあるものの、公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加した子どもは減少傾向にある。
- ✓ 公的機関等の自然体験活動に参加しなかった理由としては、“子どもが関心を示さないから”が多くなっている。

子どもの心身を鍛え、社会的自立を促していくためには・・・

家族での体験活動だけではなく、親元を離れ、非日常的な環境のなかで、同年代の仲間と一つ屋根の下で同じ釜の飯を食べながら様々な活動に挑戦し、ともに苦勞を乗り越え、物事をやり遂げる経験をさせることが大切。

これからの体験活動の推進に必要な視点

青少年に対し、社会的自立に向けた健やかな成長を促していくためには、体験活動は人づくりの“原点”であるとの認識の下、未来の社会を担う全ての青少年に、人間的な成長に不可欠な体験を経験させることが必要である。

そのためには、家庭・地域・学校が協働し、それぞれの場面で発達段階に応じた多様な体験を意図的・計画的に創出することで、子どもの成長を支える環境づくりを進めていくことが大切である。



多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり



子どもの成長を支える20の体験

体験活動				生活習慣				人とのかかわり											
自然体験 キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等	集団活動 子ども会、委員会、係、クラブ等	地域行事 祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント等	社会貢献 清掃活動、基金活動、慰問活動、環境保全活動、地域おこし、まちづくり等	規則正しい生活 早寝、早起き、朝ごはみ、入浴等	遊び おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、滑り台、おままごと、ごっこ遊び等	お手伝い 買い物、料理、掃除、ゴミ出し、洗濯、くつ磨き等	家族行事 誕生日のお祝い、お墓参り、大掃除、季節行事等	家族とのかかわり 家族にほめられる、親に叱られる、親に勉強をみてもらう、家族と遊ぶ、親にしつけられる、親と将来の話をする、家族の看病をする、兄弟の世界をする等	友達とのかかわり ※同級生、先輩、後輩等 友達にほめられる、友達に注意される、友達から認められる、友達から尊敬される、友達と遊ぶ、友達とけんかする等	職業体験 農林漁業体験、インターンシップ、職業体験型テーマパーク等	文化芸術体験 音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等	科学体験 科学実験・工作、ロボット製作、プログラミング等	国際交流体験 国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ等	運動・スポーツ スポーツ少年団、スポーツクラブ、部活動等	読書 読み聞かせ、絵本、小説、まんが、新聞、雑誌等	動物とのふれあい 生き物の飼育、植物の栽培、自然観察等	探究学習 調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自学自習等	先生とのかかわり ※教師、指導者等 先生にほめられる、先生に叱られる、先生に相談する、先生に認められる、先生に仕事を任せられる、先生と遊ぶ等	地域への人とのかかわり ※保護者や先生以外の大人等 地域の人にほめられる、地域の人に注意される、地域の人に相談する、地域の人に認められる、地域の人に遊んでもらう、地域の人に勉強をみてもらう等

体験活動

自然体験

キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等



集団活動

子ども会、委員会、係、クラブ等



地域行事

祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント等

社会貢献

清掃活動、募金活動、慰問活動、環境保全活動、地域おこし、まちづくり等



職業体験

農林漁業体験、インターンシップ、職業体験型テーマパーク等

文化芸術体験

音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等

科学体験

科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング等



国際交流体験

国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ等



体験の質に目を向けることが大切！

- ✓子どもが夢中になって取り組める活動か
- ✓子どもが心を動かされるような体験ができるのか
- ✓そのことを通じて子どもがどういった気づきや学びが得られるのか

生活習慣

子どもの成長を支える 20の体験

規則正しい生活

早寝、早起き、朝ごはん、洗面、歯磨き、入浴等



遊び

おにごっこ、かくれんぼ、ブランコ、滑り台、おままごと、ごっこ遊び等



お手伝い

買い物、料理、掃除、ゴミ出し、洗濯、くつ磨き等



家族行事

誕生日のお祝い、お墓参り、大掃除、季節行事等

運動・スポーツ

スポーツ少年団、スポーツクラブ、部活動等



読書

読み聞かせ、絵本、小説、まんが、新聞、雑誌等



動植物とのふれあい

生き物の飼育、植物の栽培、自然観察等



探究学習

調べ学習、体験学習、課題研究、自由研究、自学自習等



人との かかわり

家族とのかかわり

家族にほめられる、親に叱られる、親に勉強をみてもらう、家族と遊ぶ、親にしつけられる、親と将来の話をする、家族の看病をする、兄弟の世話をする等



友達[※]とのかかわり

※同級生、先輩、後輩等
友達にほめられる、友達に注意される、友達から認められる、友達から尊敬される、友達と遊ぶ、友達とけんかする等



先生[※]とのかかわり

※教師、指導者等
先生にほめられる、先生に叱られる、先生に相談する、先生に認められる、先生に仕事を任せられる、先生と遊ぶ等



地域[※]の人とのかかわり

※保護者や先生以外の大人等
地域の人にほめられる、地域の人に注意される、地域の人に相談する、地域の人に認められる、地域の人に遊んでもらう、地域の人に勉強をみてもらう等



子どものまわりにいる大人は・・・
子どもを温かく見守りつつも、様々な体験を通じて子どもを褒めたり、励ましたり、悩みを聞いたり、時には叱ったりしながらうまく関わり合いをもつようにし、心の成長を促す働きかけを積極的に行っていくことが必要！

年齢期を踏まえた系統的・体系的な体験活動の推進

幼児期の自然体験・外遊びの推進

- ・主に家族を対象に、自然体験・外遊びに取り組みやすい環境を整備

学童期の集団宿泊活動の推進

- ・低学年のうち、幼児期の体験を意識しつつ、主に日帰りの自然体験や短期(1～3泊程度)の集団宿泊活動を実施
- ・低学年から高学年にかけては、自然体験、農山漁村体験、伝統・文化体験、科学体験、国際交流体験など徐々に体験の幅に広がりをもたせつつ、主に長期(1週間以上)の集団宿泊活動を実施

青年期の地域貢献活動の推進

- ・中学生は、小学校高学年の体験を引き続き推進していくとともに、職業体験や奉仕体験など、身近な地域や社会とのつながりが感じられる体験活動を実施
- ・高校生は、身近な地域や社会に目を向け、地域住民の一人としてその課題解決に向けた取組を実践する活動(地域貢献活動)を実施

地域や家庭の環境にかかわらず、
全ての子どもが豊かな体験を享受できる社会を目指すためには

家庭では・・・

- ✓ 体験活動に対する子どもの興味を高める工夫をする。
- ✓ 体験活動に関する保護者の理解を広める取組を行う。

地域では・・・

- ✓ 体験活動推進の拠点となる青少年教育施設等の充実を図り、地域で活動する青少年団体等への支援を行う。
- ✓ 地域の教育資源を生かし、子どもの体験活動の場や機会をプロデュースできる人材を育成する。

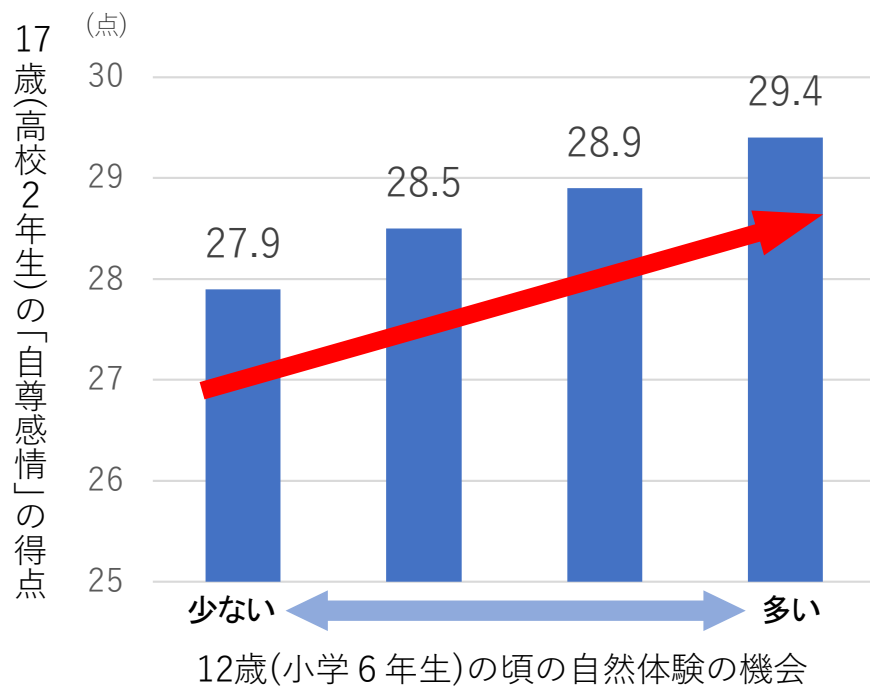
学校では・・・

- ✓ 地域と連携し、教科等の学習に関連付けた体験活動の充実を図る。
- ✓ 教員研修や教員養成で体験活動の指導や実践に関する基礎的な知識・技能を身につけられる機会を設ける。

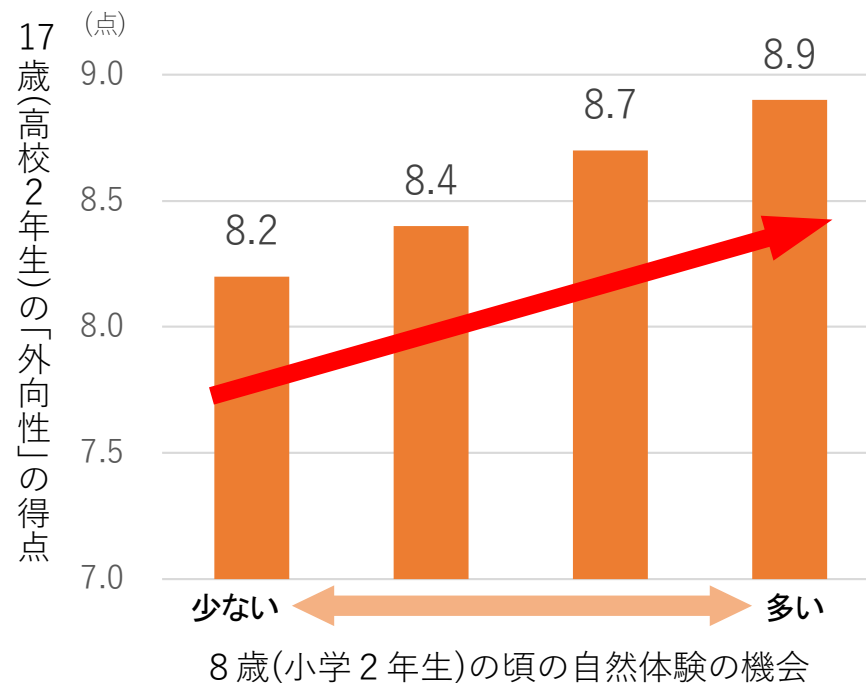
参 考 资 料

小学生の頃に“自然体験”をよくしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情や外向性が高くなる傾向がみられる

小学生の頃の自然体験と高校生になった時の意識の関係



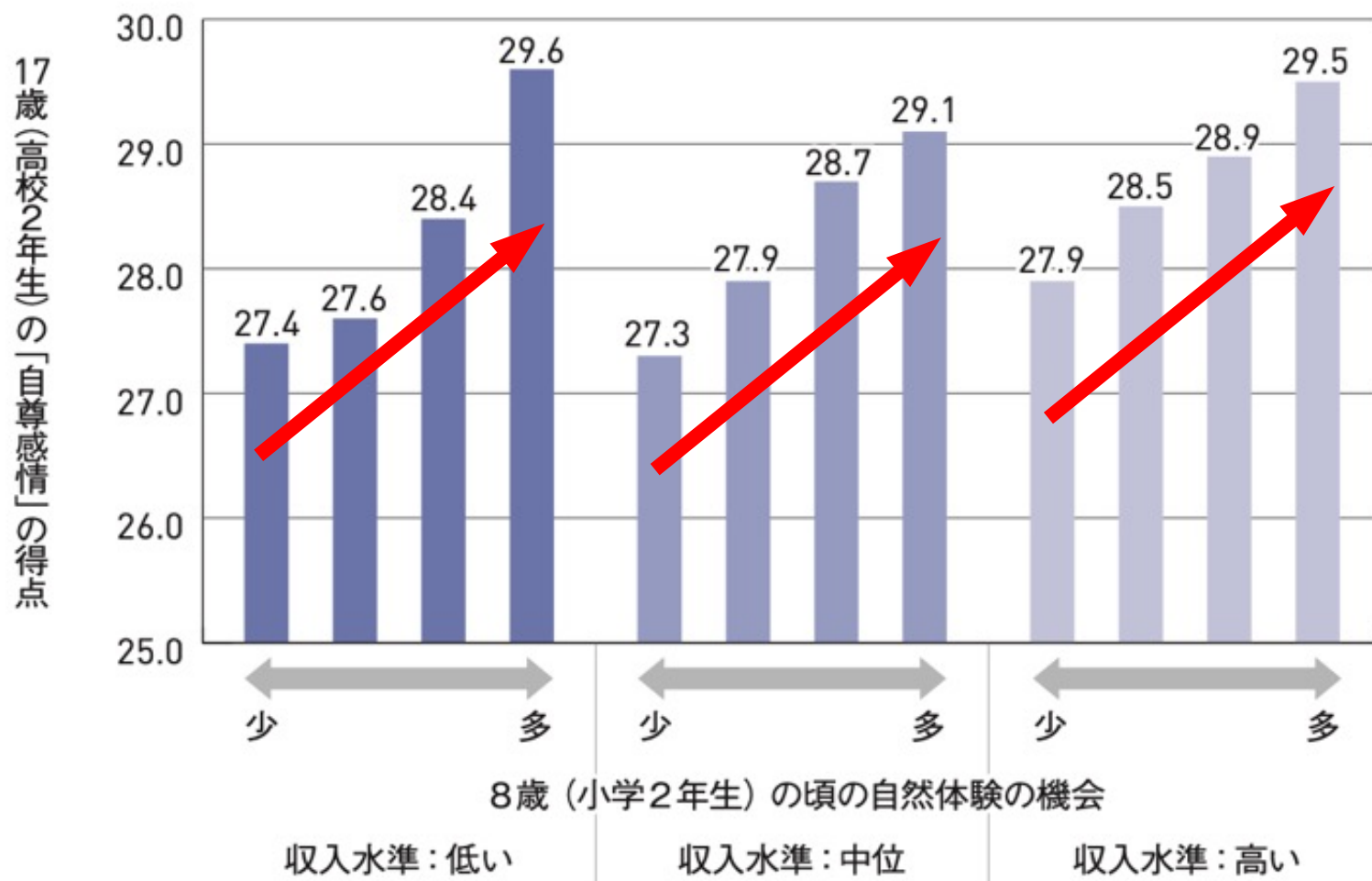
小学6年生の頃の自然体験と高校生になった現在の自尊感情の関係



小学2年生の頃の自然体験と高校生になった現在の外向性との関係

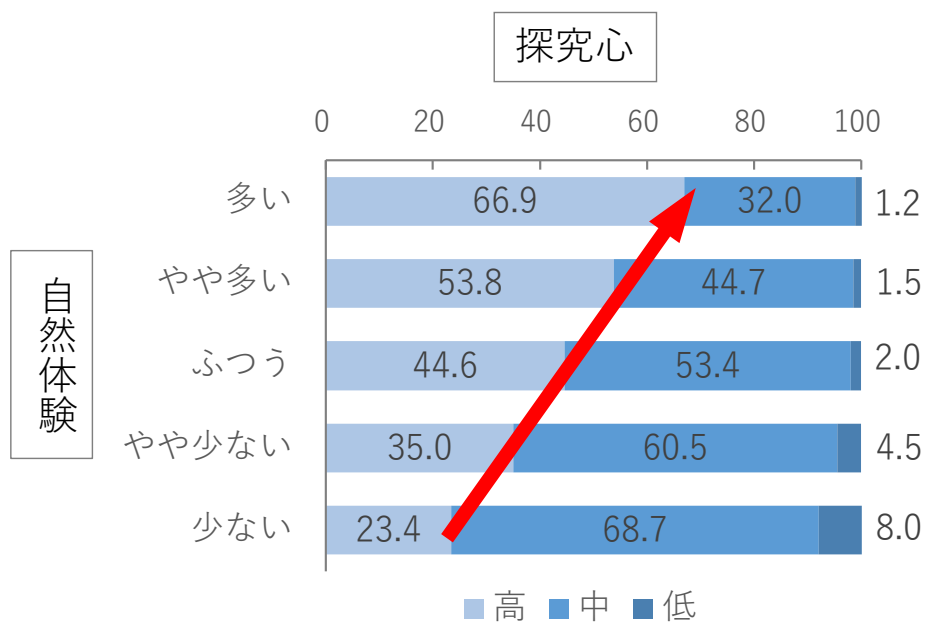
小学生の頃に自然体験の機会に恵まれていると、家庭の経済状況に関わらず、 高校生の時に自尊感情が高くなる傾向がみられる

小学生の頃の自然体験と高校生になった時の自尊感情の関係

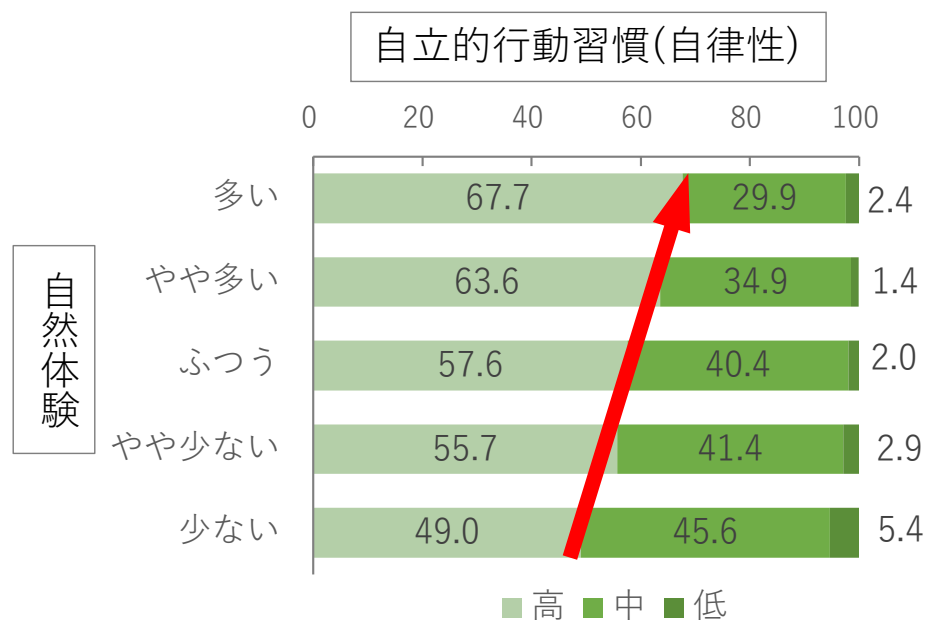


“自然体験”をよくしている子どもほど、 探究心や自立的な行動習慣が身に付いている傾向がみられる

自然体験と意識との関係

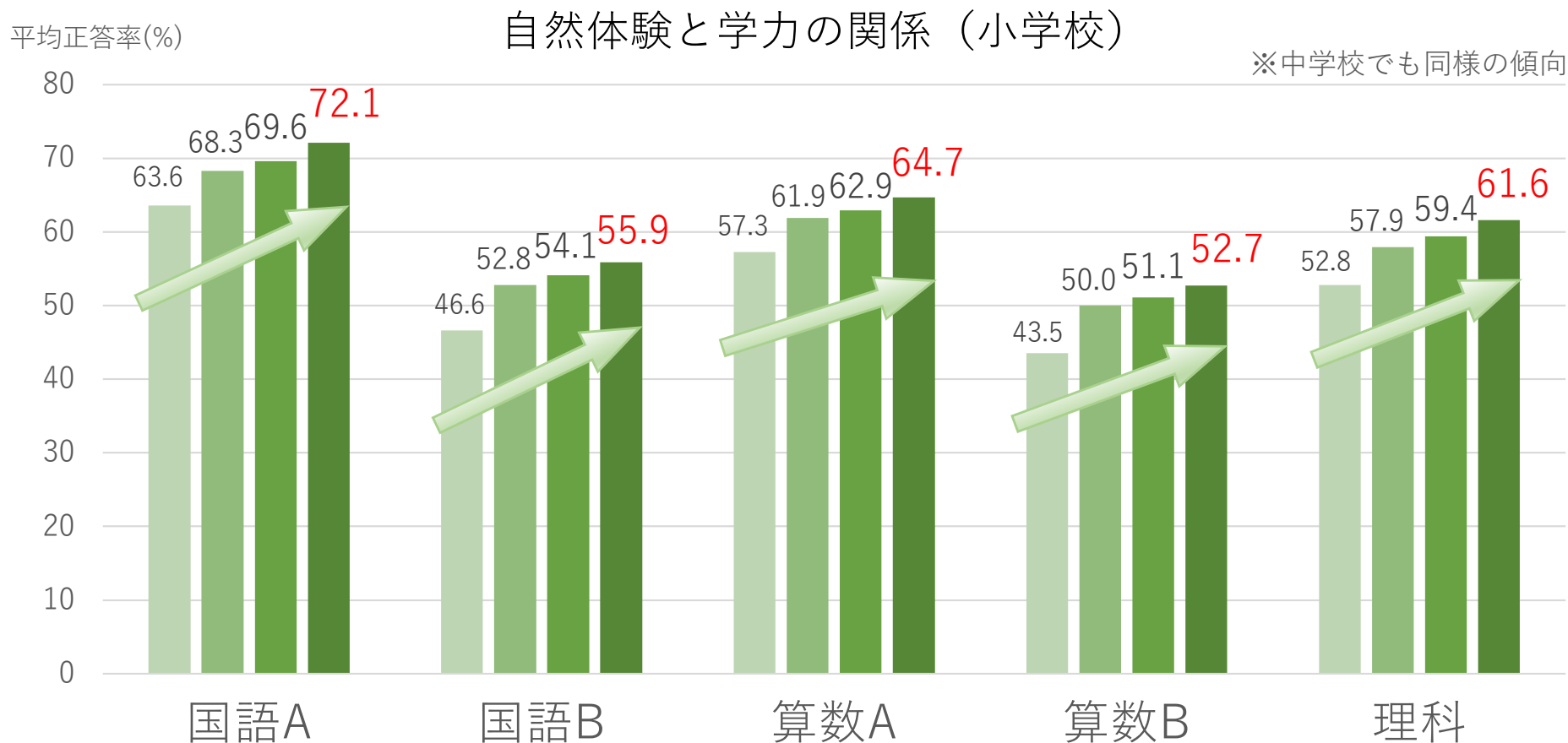


自然体験と探究力の関係



自然体験と自立的行動習慣
(自律性)の関係

“自然の中で遊んだこと”や“自然観察”をしたことがある児童ほど、 国語や算数、理科の正答率が高い児童が多くなる傾向がみられる

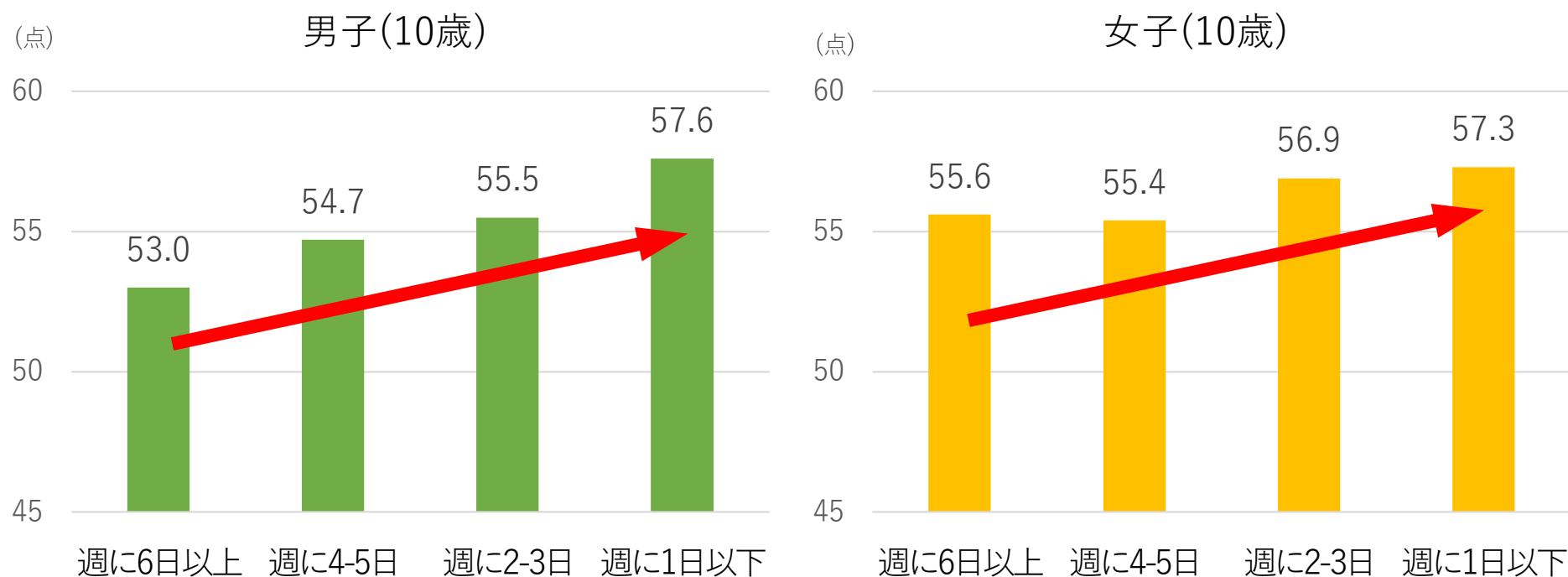


【自然の中で遊んだことや自然観察をしたこと】

■ 当てはまらない ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ どちらかといえば、当てはまる ■ 当てはまる

幼児期に“外遊び”をよくしていた児童ほど、 体力テストの得点の高い児童が多くなる傾向がみられる

幼児期の外遊びと体力の関係

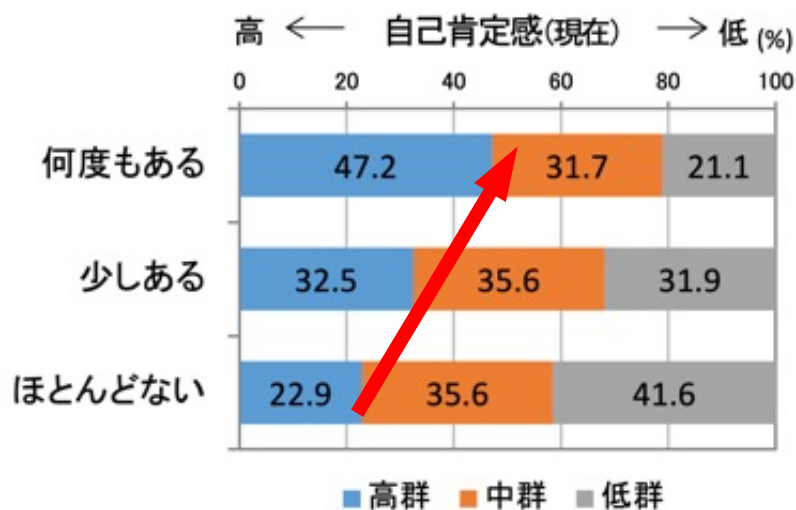


入学前の外遊びの実施状況別新体力テスト合計点（10歳）

子どもの頃、“家族でスポーツや自然体験”をよくしていた人ほど、自己肯定感や意欲の高い大人になる人が多い傾向がみられる

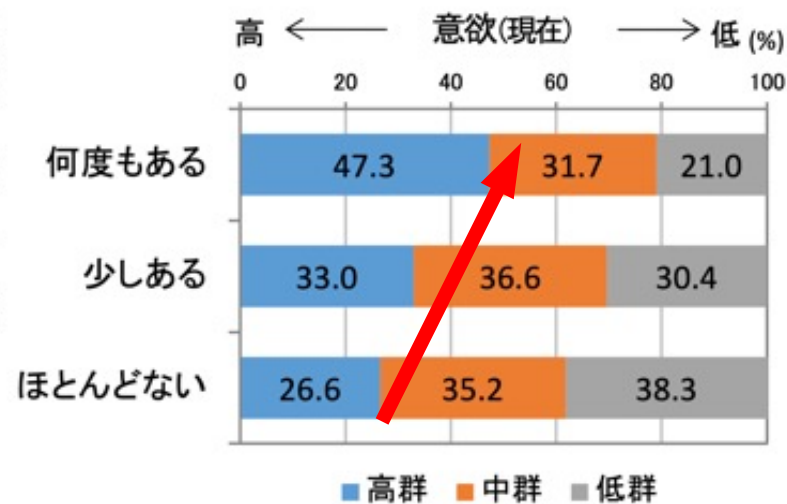
子どもの頃の体験と大人になった現在の意識の関係

（就学前）
家族でスポーツしたり、
自然の中で遊んだりしたこと



就学前に家族でスポーツしたり、
自然の中で遊んだりしたこと大人
になった現在の自己肯定感の関係

（就学前）
家族でスポーツしたり、
自然の中で遊んだりしたこと



就学前に家族でスポーツしたり、
自然の中で遊んだりしたこと大人
になった現在の意欲の関係

小学校期の子どもの体験活動の状況

学校での活動

9割以上の学校が学校行事として体験活動をしている。

小学校における自然の中での集団宿泊活動の実施日数

	4泊5日	3泊4日	2泊3日	1泊2日	行っていない
平成30年度	4.7%	4.6%	32.0%	55.5%	3.2%
平成29年度	4.5%	4.4%	30.1%	55.1%	5.7%
平成28年度	4.7%	4.3%	29.9%	54.8%	6.2%

全国学力・学習状況調査（平成30年度調査）

学校外での活動

約5割の子どもが体験活動をしている。

海や川で泳いだこと 60.2%(H10) → **50.8%**(R1)

チョウやトンボなどの昆虫をつかまえたこと 50.2%(H10) → **43.6%**(R1)

海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと 42.0%(H10) → **35.0%**(R1)

※「何度もある」と回答した子どもの割合

国立青少年教育振興機構(2021)「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査)

6割以上の保護者は、自分が子どもの頃と比べ、
“今の子どもは体験活動の機会が少なくなっている”と感じている

※「とても思う」「少し思う」と回答した割合

現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、
体験活動の機会が少なくなっている

66.5%(R1)

学校の授業や行事では、
子どもたちが体験活動
ができる機会が十分にある

62.0%(R1)



学校の授業や行事以外
では、子どもたちが
体験活動ができる機会
が十分にある

46.0%(R1)

“家族や友だちと一緒にいる自然体験活動”は増えてつあるものの、
“公的機関や民間団体等が行う自然体験活動”への参加は減少傾向

家族や友だちと一緒に自然体験活動を行った割合

54.5%(H20)→**57.5%**(R1)3.0ポイント増加

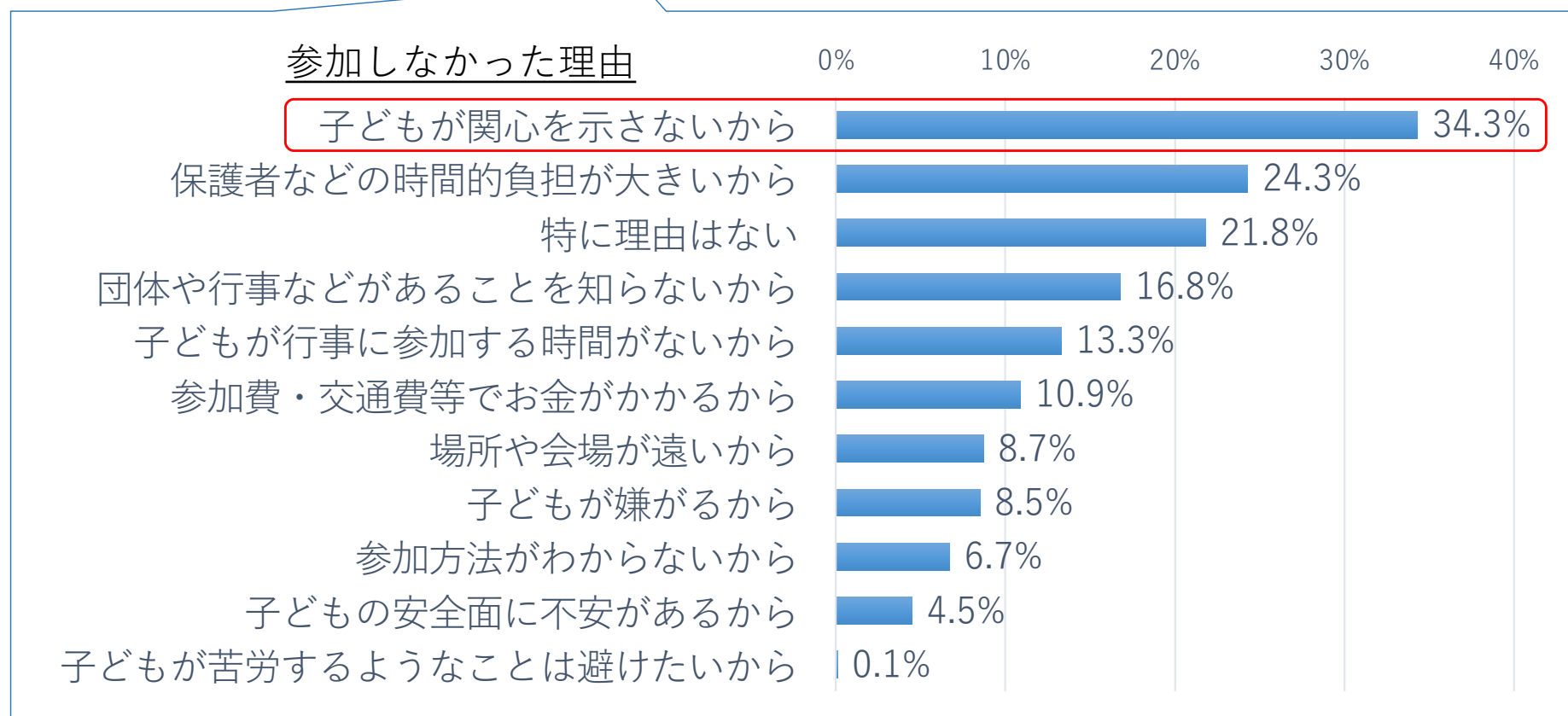
公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に関する行事への参加率

公的機関や民間団体等	[H20]→[R1]	増減
子ども会やスポーツ少年団などの青少年団体	32.1%→20.1%	▲12.0
PTA・自治会・町内会などの地域の団体	27.7%→19.6%	▲8.1
スポーツクラブや学習塾	23.0%→18.5%	▲4.5
児童館や公民館などの公的施設	18.6%→12.6%	▲6.0
青年の家・少年自然の家などの教育施設	7.9%→5.9%	▲2.0
都道府県・市町村や教育委員会	4.7%→4.5%	▲0.2
公益法人やNPO法人などの民間団体	3.2%→4.3%	1.1
旅行会社などの企業	3.0%→2.2%	▲0.8

公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加しなかった理由について 3割以上の保護者が“子どもが関心を示さないから”と回答

公的機関や民間団体等が行う自然体験活動に参加しなかった小学生の割合

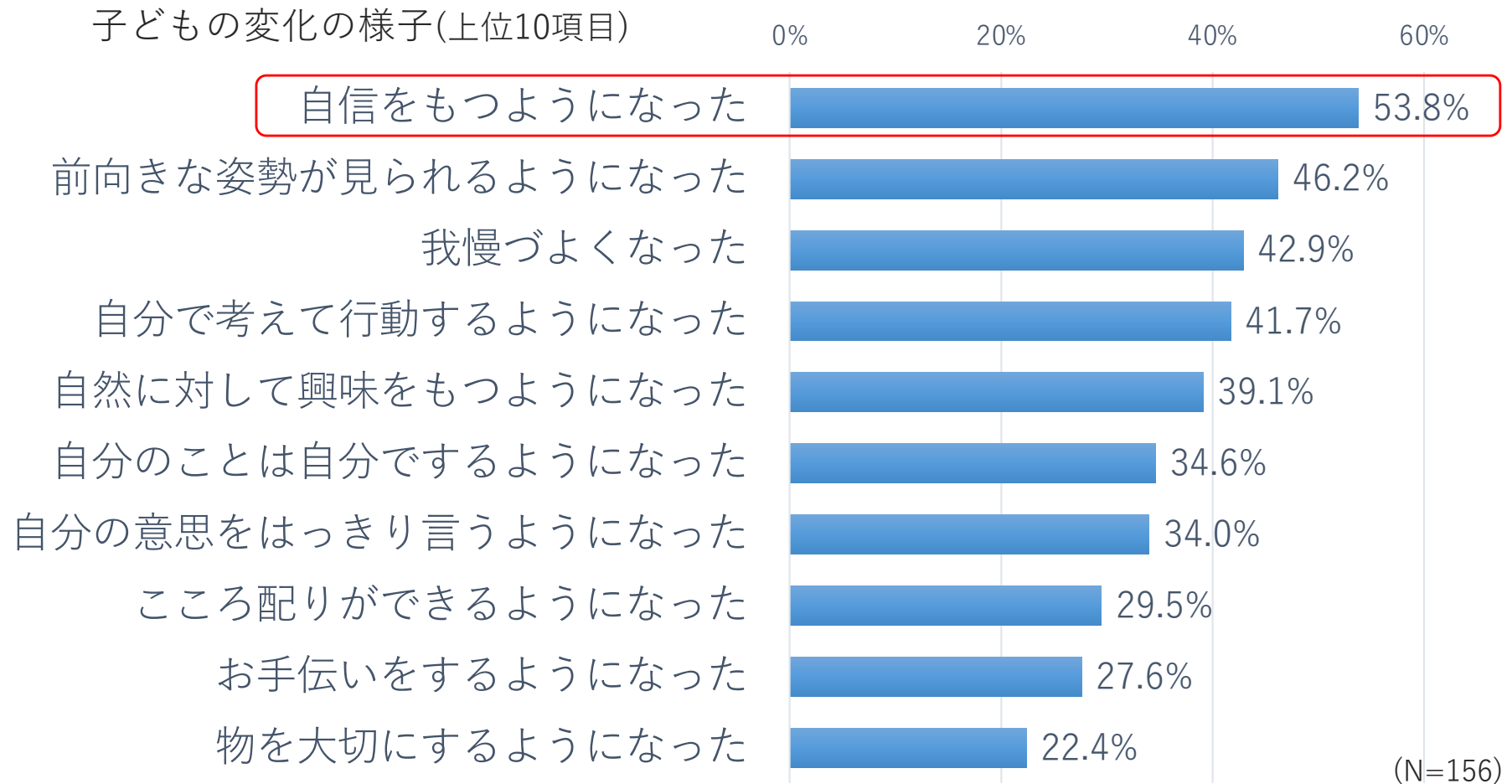
31.4%(H20) → **46.8%**(R1) 15.4ポイント増加



国立青少年教育振興機構(2021)「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査)等を参考に作成

長期自然体験活動に子どもを参加させた保護者の半数以上が活動後、子どもが「自信をもつようになった」と回答

長期自然体験活動の参加後にみられた子どもの変化



長期自然体験活動に参加したことで

今の生活や考え方、進路に影響を受けた参加者は多い

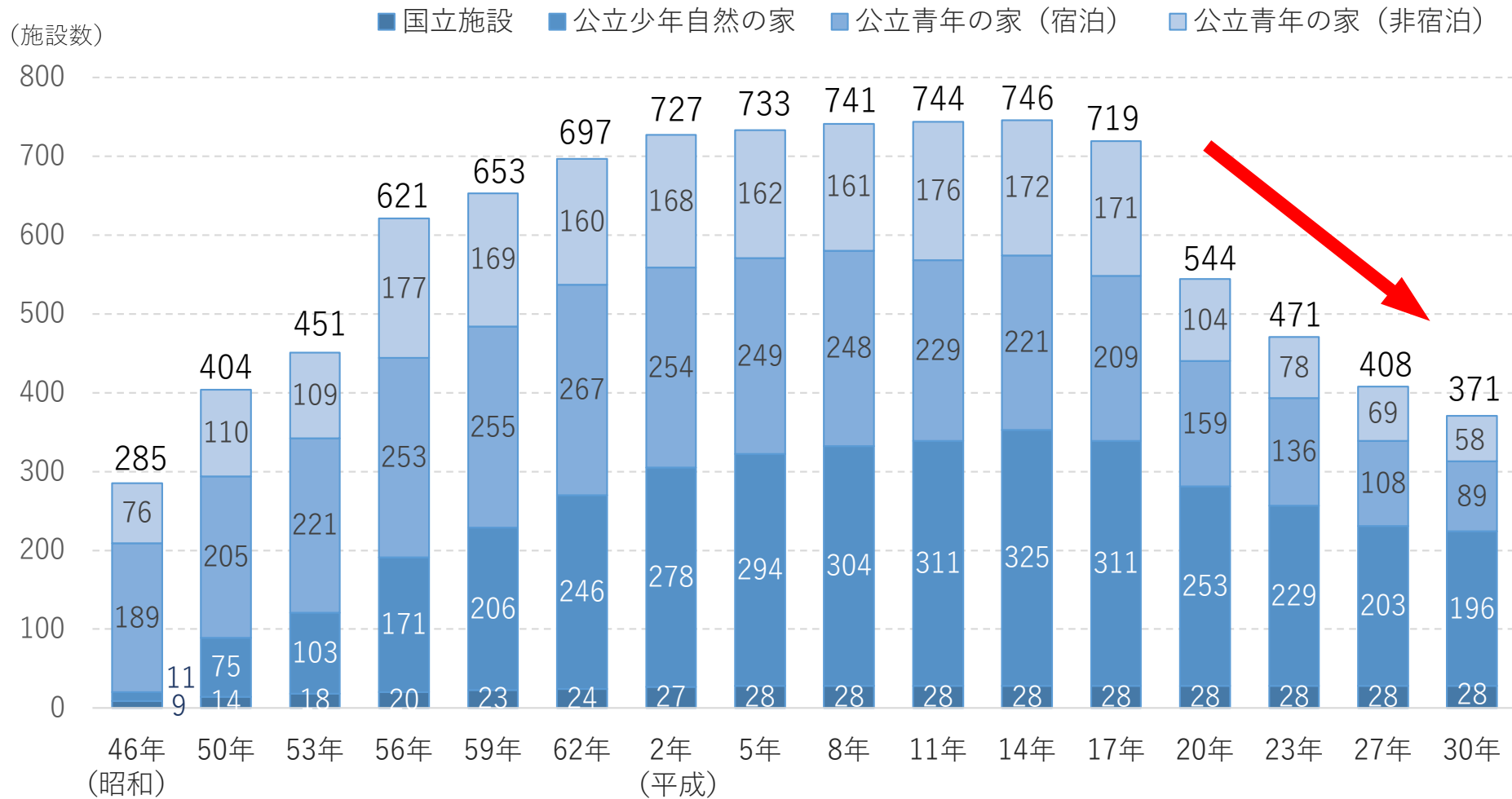
今の生活や考え方

- 人や自然との関わりにより、人の心は磨かれ豊かになり、それにより得た知識や経験によってキャパシティが広がる。また、メンタルにおいても鍛えられた。どんな環境におかれても自分の力を遺憾なく発揮し、相手をより理解し、人間関係を築くことができると自負している。(20歳/女性)
- 誰かに頼ったりするのではなく、自分からどう行動すればうまくいくのかを考えるようになった。便利なものがたくさんある中で、“ない”生活を経験したことで、協力や団結が深まり、一人一人の得意なことや性格を生かせるようになった。(16歳/女性)

進路への影響

- 人は環境により、知識や経験を得、その後の人生に大きく影響すると思うから豊かな人間性を育てたいと思い、保育の道へ進んだ。今、子供たちとの関わりにおいて悩み苦しみつつも、働く保護者に代わって保育に日々奮闘している。(20歳/女性)
- 来年からアメリカに留学します。どんなことにも挑戦しよう!という気持ちで、このプログラムに参加したことによってつきました。(17歳/女性)
- 自然や生物がより好きになり、水産系の学校に進学した。食事づくりが楽しかったので、調理師になりたいなと思いました。(17歳/男性)

青少年の体験活動の拠点となる青少年教育施設は、 15年ほどの間で急減し、ピーク時に比べて半減している



※国立施設には「その他の青少年教育施設（国立オリンピック記念青少年総合センター）」を含む

文部科学省「社会教育調査」を基に作成

学校と青少年教育施設が連携して行った 教科等の学習に関連付けた体験活動の実践例

集団宿泊活動の実実施計画における日程例

(令和2年度「なすかしの森 セカンドスクール」西郷村立米小学校 第5学年)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
1日目	活動プログラム/〇〇 教科等【時数】/〇〇 単元名等/〇〇			登校	学校出発	那須平成の森到着 開講式 出会いのつどい	総合【5】 那須平成の森プログラム					帰りの会	計画立案	つどい	夕食	キャンドル ファイヤー	振り返り	入浴	消灯
2日目	起床・清掃	つどい	朝食	朝の会	エコアカデミー 社会【2】 私たちの生活と森林	俳句イングリッシュ ハイキング 国語【2】 日常を十七音で	昼食 昼休み		社会【1】 私たちの生活と森林	理科【1】 流れる水のはたらき	帰りの会	宿題	つどい	夕食	ドッジボール 鬼ごっこ	振り返り	入浴	消灯	
3日目	起床・清掃	つどい	朝食	朝の会	沢歩きハイキング 理科【4】 流れる水のはたらき		昼食 昼休み		理科【1】 流れる水のはたらき	国語【1】 手紙の書き方	帰りの会	宿題	つどい	夕食	ナイトハイク	振り返り	入浴	消灯	
4日目	起床・清掃	つどい	朝食	朝の会	退所点検・清掃	野外炊事 家庭科【4】 食べて元気に			道徳【1】 感謝の気持ち	総合【1】 別れに向けて	帰りの会	下校							

※次のスライドに事例を掲載

国立青少年教育振興機構(2021)「集団宿泊活動サポートガイド(5年間のまとめ)」

活動プログラム／沢歩きハイキング

◆5年 理科「流れる水のはたらき」

単元の 目標

流れる水は、土地を侵食したり、石や土を運搬したり、堆積させたりする働きがあること。また、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化し、ときに災害を引き起こす場合があること、災害に対する備えが重要であることを捉えるようにする。



◆学習過程と活動の流れ

課題の把握

学校での
学習
【2時間】

- ・資料写真や生活経験から流れる水のはたらきや、川の上流・中流・下流の石の様子の違いについて話し合う。
- ・川と川原の石の様子の違いについてまとめる。

課題の探究

施設での
学習
【4時間】

- ・実際に、源流や沢を観察し、流れる水には土地を侵食したり、石や土などを運搬したり、堆積させたりする働きがあることを調べ、記録する。
- ・記録したものを振り返りながら、実際の沢をモデル化して実験する方法を考えたり、今後調べてみたいことを話し合ったりする。

課題の解決

学校での
学習
【6時間】

- ・観察したことや、話し合ったことをもとに、実験したり、さらに調べたりし、流れる水のはたらきについてまとめる。
- ・川の水による災害について考え、その備えについてまとめる。

◆育成する資質・能力

知識及び技能

- ・流れる水には、侵食・運搬・堆積のはたらきがあることを理解すること。
- ・沢や川の上流・中流・下流によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解すること。

思考力・判断力・表現力等

- ・流れる水の働きを追究する中で、流れる水の働きと土地の変化の関係についての予想や仮説を基に、解決方法を発想し、表現できるようにすること。

学びに向かう力、 人間性等

- ・流れる水の働きを追究する中で、専門家の話を聞いたり、仲間と意見を交流させたりして、課題を解決しようとする態度を育てること。



国立那須甲子青少年自然の家

引率者(先生)からの声

- ✓ 施設を利用することで、学校では体験できないことを体験することができるため、児童が主体的に取り組むようになり、深い学びにつながったと感じる。

[小学校 5 年生 理科]

- ✓ 体験を伴う活動により、児童自らが新たな課題を見つけ、次の調べ学習への関心意欲の高まりが見られ、探究の過程のサイクルが実現しやすいと感じる。

[小学校 4 年生 総合]

- ✓ 専門の施設職員等がついてくれるため、安心して児童が学べる。また、施設でのフィールドを使用できるため、学校側の教材・教具の準備等がほとんど必要なく、教員の負担が少ないと感じた。

[小学校 5 年生 総合]

教員研修や教員養成における体験活動の実践事例

「教員等を対象とした講習会」の事例

冒険教育の手法や考え方について体験を通して学び、学校教育や学級経営、社会教育等の場で活用できる、集団の中での望ましい人間関係づくりや個人の成長を促すための指導技術を身につける。



距離を取り、非接触で行うアイスブレイク



グループで体と頭を使って課題解決



グループごとに試行錯誤しながら課題解決



ホワイトボードを使用した振り返り

事例：国立花山青少年自然の家
「学級や集団の力を生かす体験学習法指導者講習会」

「教員養成課程」の事例

3泊4日のキャンプ体験を通じて、学校教育でよく行われる体験活動（登山、野外炊事、課題解決型ゲーム等）を自ら経験することで、体験活動の指導に必要な基礎的な知識や技術を身につける。



登山



野外炊事



課題解決型ゲーム



テント設営

事例：北翔大学「野外教育実習」